

## 劇中の装いや生き方に学ぶ、紳士の条件 スクリーンに見る

# 男の「やさしさ」と「強さ」

ウオモが目標とする男性像は強さに裏づけられた「やさしさ」をもつ現代のジェントルマンです。  
そうした理想の姿をスクリーンに見て、憧れを抱く人は少なくないはず。  
紳士主義を求めてやまない面々にスタイルアイコンを伺い、いま求められる紳士像を炙り出します。

撮影/久保田育男(OWL) スタイリスト/坂井慶倫、構成/海沼一誠 取材・文/小田島久恵(P.84~87) 近間恭子(P.88~89)

二 れからの時代、男のやさしさ  
って責任や自己犠牲を伴って  
いるべきだと思うんです。特にこれ  
からの日本は、何か世の中のために  
自分を犠牲にして成し遂げる、とい  
うことができる男性に出てきてほし  
い。被災地で活躍した自衛隊の男た  
ちが見せた「強さ」と「やさしさ」  
は、男の美の基準を変えたと思っ  
ます。消防隊もそうですが、一瞬の  
躊躇が命取りになってしまうわけ  
ですよ。そのために日々過酷な訓練を  
行い、本番の災害時には一人でも多  
くの命を救う。そんな男たちは、佇  
まいも顔も本当に美しいと思います。  
「大義」のために自己を犠牲にする  
男の映画なら、真っ先に見てほしい  
のが、名作「カサブランカ」。特にラ  
ストシーンは素晴らしくて、台詞も  
音楽もパーフェクトです。全部覚え  
ているくらい。

服飾史家

中野香織さんに聞きました

“自分の欲望よりも  
国家や女性に尽くす  
その潔さが魅力”

ハンフリー・ボガード演じるリッ  
クは、アメリカの勝利のために、愛  
する女から身を引くんですね。それ  
を、イングリッド・バーグマン演じ  
るイルザも、彼女の夫も全部わかっ  
ていて、「わかったわ。さようなら。  
お元気で」と言う。大人でしょう(笑)。  
有名な「君の瞳に乾杯」みたいなク  
サイ台詞を一寸の照れもなく言える  
のも、これからの男には必要なの  
ではないかと。ボギーのようにトレン  
チコートのベルトを無造作に結んで、  
まっすぐ目を見て言う。この力強  
いスタイルも、頼りがいという意味  
でやさしさのアイコンですね。

「カサブランカ」が撮られたのは第  
二次大戦中(1942年)で、プロバ  
ガンダ映画として、アメリカの勝利  
を応援する作品として作られたわけ  
です。バブル時代に見たときは「ピン  
とこない」ところもあったけど、今見  
ると、大義のために正々堂々と戦い  
自分の欲望を二の次にする、という  
生き方は本当に強くなければできな  
いし、そこにこそやさしさを感じま  
す。完成度が高くて、古い感じはし  
ない古典の名作ですね。

DVD化されている白洲次郎のド  
ラマにも、同じ気概とやさしさを感じ  
ます。日本が終戦のときに、男た  
ちがどんな責任を負って、どんなや  
さしさを見せたかがよくわかる。伊  
勢谷友介さん演じる白洲次郎の台詞  
に「誰かが汚れを引き受けなければ、  
日本の再生はない」というのがあ  
るんですが、これこそ今の日本に必要  
な精神ですよ。白洲次郎といえは、  
今こそかっこいい男の代表みたいに  
いわれやすけど、当時はかなりパッ  
シングも受けたし、まさに汚れ役を  
引き受けて日本を再生へ導いた人だ  
ったわけです。私たちはそれをもつ



## 『ヴィクトリア女王 世紀の愛』

THE YOUNG VICTORIA  
アルバート公  
(ルバート・フレンド)

女王である妻を支え大英帝国の繁栄を見守った「男版・内助の功」アルバート公。スケールの大きな夫婦愛を貫き、女性が太陽であってもけっしてひがまない「月」の男の生き方



写真: Globe Photos アフロ

スーツくらい完璧に着こなせる、というのもジェントルマンシップの要件であり男のかっこいい性というもの。「華麗なる賭け」劇中でも完璧なスーティングを見せるマックウィーンが印象的。スーツ ¥157,500 / ポール・スチュアート (SANYO SHOKAI) シャツ ¥21,000 / トウルツィ・タイ ¥14,700 / フランコ パッシ (ともにビームス銀座)

## 『華麗なる賭け』

THE THOMAS CROWN AFFAIR  
トーマス・クラウン  
(スティーブ・マックウィーン)

大富豪にして大泥棒。二つの顔をもつトーマス・クラウンを演じるマックウィーンは当時38歳。彼をクロだと知らずに近づく保険調査員(ダナウェイ)との絡みに紳士の流儀が光る



## 『カサブランカ』

CASABLANCA  
リック・ブレイン  
(ハンフリー・ボガード)

1941年12月、モロッコのカサブランカで、アメリカ人のリックは、パリ陥落前に理由も告げずに去った恋人イルザと再会する…「君の瞳に乾杯」の台詞で有名なボギーの代表作

頼りがいのある男のイメージアイコンとなった。ボギー流にボタンを留めず無造作にベルトを結ぶのがカッコいい。¥178,500 / アクア スキュータム (レナウン プレスポート)



## 『ココ・シャネル』

COCO CHANEL  
マルク・ボウシエ  
(マルコム・マクダウエル)

男たちの支援によって生涯出世を続けたココ・シャネルの「最後のパトロン」を演じるのは「時計じかけのオレンジ」のM・マクダウエル。女の才能に惚れ、支える男のやさしさ

と知っておくべきですね。『ヴィクトリア女王 世紀の愛』はヴィクトリア女王の夫、アルバート公の懐の深さに感動します。ヴィクトリアが若いころに暗殺されそうになるんだけど、それをかばって自分が撃たれる。そのときの台詞が「僕の代わりはたくさんいるけど、あなたの代わりはいない」ですよ。じわってこない? (笑) ルバート・フレンド演じるアルバートは、ヴィクトリア女王をあらゆる面から支えて、大英帝国を繁栄に導いた人。女王が偉大であったのは、それより深い愛で彼女を支えたアルバート公の存在があったからこそだったんですね。シャーリー・マクレインが主演した「ココ・シャネル」は、シャネルを支える男たちがすごい。男たちは皆彼女に貢献するのに、シャネルはまったく感謝しないんです。彼女の才能に惚れ込み、敬意を表して、どんどんお金をつぎ込み…これって、本当に特異なやさしさだと思いませんか。シャネルが成功していくのを、男たちが喜んで見ているという…マルコム・マクダウエル演じるボウシエが最後に彼女を支える人なんです。さんざん嫌みを言われても最後まで支え続けるのね。女の才能を褒め、支援するということも、これからの男に必要なやさしさだと思いませんか。…って女に都合よすぎかな? (笑)

女性に恥をかかせない、というやさしさを映画の中でシンボリックに演じたのは「華麗なる賭け」スティーブ・マックウィーン。「ここぞ」というときに、フェイ・ダナウェイが背中のがばって開いた、いかにも「誘惑するわよ」みたいな服を着て出てくるんです。それをマックウィーン演じるトーマス・クラウンは、男の礼儀としてきちっと応えてあげる。女がそういう格好してきたら、恥をかかせないというね。体力いるけど… (笑)。大人だなんて思います。マックウィーンが着ていたきつちりとした三つ揃いのスーツもキメるときは、しっかりとキメる、大人の印象ですね。相手のことをすべて認めてあげるやさしさ、といえはマリリン・モンロー主演の「お熱いのがお好き」。女装したジャック・レモンがある老紳士にしつこく求愛されるんだけど、それを振り払おうとして「俺は男なんだ」って白状する。すると、彼は「誰にでも欠点はあるよ」って答えるんです。男でもいい、相手のすべてを受容してあげるという、これも究極のやさしさだと思いますよ (笑)。

男は涙を見せるものではない、という風潮もあるけれど「英国王のスピーチ」でコリン・ファース演じるジョージ6世が見せた涙は、すっごくいいですね。国王になんかなりたくないのに、不本意な運命を引き受けて、周囲と協調して、結局はイギリスの愛され王になった。泣きたいときは泣いてもいいんです。それでもジョージは責任を絶対に放棄せず、国のために王という責務を引き受けた。見え透いたやさしさとは比べものにならない大きなやさしさだと思います。

